

波田岡山、小畑兵庫、兒下
乙女香川、喜多條德島、松宮

不^ふ破^は事^じ務^む官^{くわん}の案^{あん}内^{ない}にて七^{しち}日^{にち}午^ご後^ご一^{いつ}時^じ
五^ご十^{じゅう}分^{ぶん}元^{げん}山^{さん}發^{はつ}臨^{りん}時^じ列^{りつ}車^{しゃ}に搭^{たふ}乗^{じよう}し午^ご後^ご

小林茂氏（元山支廳判事） 六日出發歸任
福岡徳次郎氏（同檢事） 同上
及川源五郎氏（永興支廳判事） 六日歸任
梟うしんが付き相あひだな
ないイヤ（すみ）是非三四の押問答で帝政も

[illegible]

模範的設備完成
技術優秀價格低廉
特別判一組五十錢以上
共進會
武橋町(舊大平町)
電話一八三番
破格減價

千載一遇の名譽

今橋式敷島精米機は本秋御舉行の御大典に膺り大嘗祭主基齋田米精白用として御撰定御用命の光榮を賜へり

朝鮮京城於共進會機械運轉廣告

○朝共進會開會中毎日の左の該機械を運轉し實地作業を御覽に供するを以て必

○今橋式自動敷島精米機五連座運轉裝置
此精米石高拾兩 六十石 稗集め小米篩別共自動取投入人足

○同大形(船米エッジ)一臺 運轉
此精米石高同上 四十石 動力 五馬力

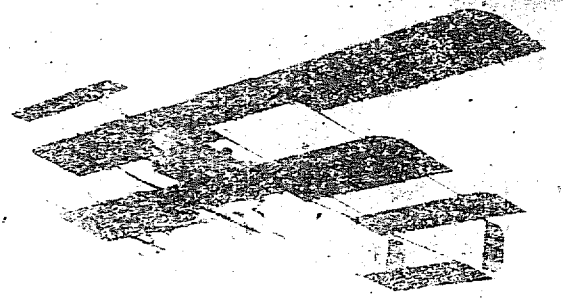
○同敷島初摺機一臺 運轉
此製石高同上 約四十石 動力 一馬力半

○製庭機一臺 作氣實施
此製庭高一日 廿五板以上

會期中數名會場及假出張所に詰切候に付
御質問及御用命共被仰付度奉希望候

敷島精米機其外製造元
米穀精米及穀工業
電話富士
京城府旭町一丁目九番地ノ四附西橋手前上る川端

今橋芳松商店
同京城假出張所



問訪會進共大の號重三

二千呎の高空より

尾崎氏京都市民の健康を祝す

降る降るの空高く晴れ初め
と云へば、昨日(七日)午前六時
尾崎氏京都市民の健康を祝す
飛行機は、東部の空から、
尾崎氏京都市民の健康を祝す
飛行機は、東部の空から、
尾崎氏京都市民の健康を祝す
飛行機は、東部の空から、

大共進會のフィルム

意外の成功に大ニッポンの技師君

この活動寫眞は朝鮮中を廻る
飛行機三重の低空飛行
飛行機三重の低空飛行
飛行機三重の低空飛行
飛行機三重の低空飛行
飛行機三重の低空飛行

満鮮で大演習

其の大事は解るが、日本陸軍大官談

自らは日清戦争の時、朝鮮に
朝鮮に、朝鮮に、朝鮮に
朝鮮に、朝鮮に、朝鮮に
朝鮮に、朝鮮に、朝鮮に
朝鮮に、朝鮮に、朝鮮に

家庭博覧會

天津一行の大魔術

振りの面白さ、中にも今日の入場
振りの面白さ、中にも今日の入場
振りの面白さ、中にも今日の入場
振りの面白さ、中にも今日の入場
振りの面白さ、中にも今日の入場



本社 全鮮庭球大會十月廿四日

生命がけの奇談は、
生命がけの奇談は、
生命がけの奇談は、
生命がけの奇談は、
生命がけの奇談は、

水雷敷設船進

水式場の椿事

水雷敷設船進
水式場の椿事
水雷敷設船進
水式場の椿事
水雷敷設船進
水式場の椿事

大禮式場拜觀

老婆曉の縊死

大禮式場拜觀
老婆曉の縊死
大禮式場拜觀
老婆曉の縊死
大禮式場拜觀
老婆曉の縊死

大阪附紙夕刊競争

八日りの有樂館の活

大阪附紙夕刊競争
八日りの有樂館の活
大阪附紙夕刊競争
八日りの有樂館の活
大阪附紙夕刊競争
八日りの有樂館の活

市井の塵

櫻井小學運動會

市井の塵
櫻井小學運動會
市井の塵
櫻井小學運動會
市井の塵
櫻井小學運動會

御大典記念

仙臺平 御袴
斜子 御紋
セル 御袴
仙臺大町 藤崎吳服店
御用達

柳屋旅館

平壤市民の樂園瑞氣山を背景とし四季の眺望佳絶閑靜にして設備完全
御指定旅館
長電話二〇六番

油醬上最

目丁三町本城京
造釀店支中田
番四六七話電

料西理

白水同様に可仕儀御引立願上候
キリン生ビールと五色の酒
早くて安し一時間寫眞ひくと夜間撮影
共進會門券
金三十銭

京城寫眞館

本館 南大門一〇三〇
分館 永樂門二二〇
電話 二二〇

商況

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

大阪三品特電
下關米特電

巴里來電に曰く聯合軍と獨軍との
に激烈なる砲戰、オウウアリトア
ジャンバイエニウ方面に行はる。是
最近聯合軍が大攻撃
先だち行へると同様
運動なり（倫敦電報）

○海軍技術會議員

に君が朝鮮經濟界に於ける登程の始
期なりとす當時韓國は所謂顧問政治
の時代ニシテ行政事務は悉く外務省

を以て我が社は家庭博覽會に於て今八日及び
 黃と清ハ其決闘を專たり斯の如き名士の講演

以て我が社は家庭博覽會に於て今八日

九日の兩夜家庭講演會を催す事とし兩先生の講
 演を得るは頗る稀有の事にして京城市民諸君

[illegible]

內科
腸胃呼吸器重難
京城南出町三丁目
電話二二四番
料亭坂下



大坂

京 城 本 町

電 話 八 九 〇 番

振 替 三 〇 二 番

A circular logo featuring a portrait of a man with glasses and a mustache. The text around the portrait includes '目録' (Index) at the top and '第 一 卷' (Volume 1) at the bottom.

亡父市原盛宏
 葬儀の節は遠路御
 會葬被成下御厚志
 の段奉深謝候不取
 敢以紙上御禮申上
 候也

大正四年十月七日

嗣子市原宏

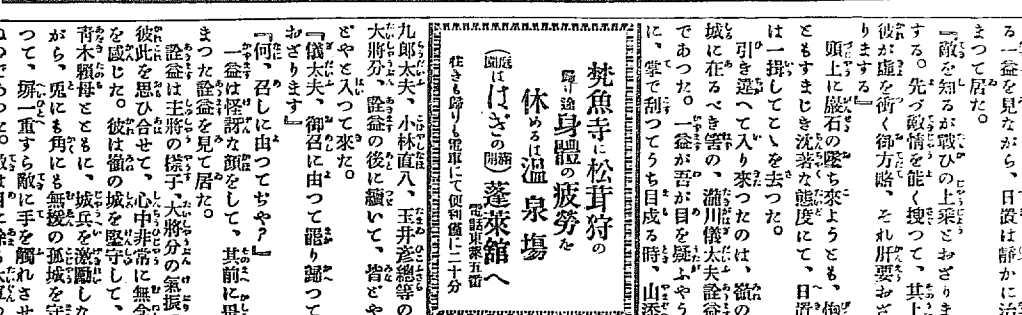
須藤南翠作
筒井年峰

「誰かある、はや萎れッ」
怒れる聲を振り擡つて、一益は大
叫した。

「召されましますか」
物に動せぬ日置五郎左衛門尉が、
のツネと入つて來た。

「お、五郎左、急山の落武者共、確
ど味方の致いたか」

けまいなが、城下の賑々も、城下
町も、只の雷火と思ひ誤り、兎
等の走せ出づるを、敵引き寄せて
斬殺し、味方を動揺せさせておざ
る三九郎殿始て敵の旗を見られ、下
を傳へて持口を固めさせられたれ
敵は既に歸入つて、役所々々に火
かけたる事とて、關大藏邊早く兵
認め、急に本丸に立籠つておざら



了へた。
 一益も一灰の戦死、乳母が子の陣
 歿に、流石悲憤に堪へたかつたが、
 渾然として氣を厲し、
 「頼みに思ふ勇士等を討たせたいは
 此處眞霧りさすに置くべきか、善夫
 今より直接筑前に本陣を蹴破つて
 甲冑職の致いてくれよう」
 奮然と力を起して、武者辰巳をす

[illegible]

る一益を見ながら、日置は靜かに治まつて居て、

「敵を先づが戰ひの上乗（じやうりやう）きとぞする。知る先、敵情（ていきやう）を能く搜（たづ）つて、其上より彼が壘（るい）を衝く御方（ごはう）略（りやく）、それ肝要（かんよう）とぞする」と

頭上（かみづか）に巖（いわ）石（いし）の壁（かべ）來（き）ようとも、梅（うめ）ともすまじき沈著（しんちゃく）な態度（たいど）にて、日置（ひき）は一擲（いつてき）してこゝを去つた。

引き違（ひきちが）へて入り來つたのは、嶺（たけ）の城（しろ）に在（あ）るき笹（ささ）の瀧川（たきがわ）儀太夫（ぎだうぶ）詮詮（せんせん）であつた。一益（いちえき）が吾（われ）が目を巖（いわ）上（うへ）やうに、掌（てのひら）で刮（け）つてうも目（め）成（な）る時（とき）、山（やま）深（ふか）

[illegible]

梵魚寺に松茸狩の
 辱身體の疲勞な
 休むるは温泉場
 (園は)けきの開蓬萊館へ
 (蓬萊館)東京紫雲坊
 住きも奢りも常座にて便利値に二十分
 九郎太夫、小林直八、玉井彦總等の
 大將分、露益の後に續いて、皆どや
 どやと入つて來た。
 (儲太夫) 御召に由つて罷り歸つて

[illegible]

「何、召しに由つてぢやや」
 一益は釋言を顔をして、其前に母
 まつた益益を見て居た。
 登益は主將の様子、大將分の氣振
 を感じた。彼は舊の城を堅守して、
 青木親母とともに、城兵を激勵し
 がら、兎にも角にも無援の孤城を守
 つて、殊に重す敵に手を觸れさせ

[illegible]

上に、手づから黄に目を飽かす大層の
 ので、おつた
 朝夕の煙の城んなのに引替へ、味方
 は落ち擲の付いた兵、兵狼の煙も
 くなるばかりである。されど、落槍
 ともあらぬのに、核爆を棄て歸陣さ
 よと命じながら、此場の光景は何た
 の事ぞ、彼は心中に悔みである。
 「此手の合戦大切と承はりまいたが
 の、俄々と思ひ違ひ致しまいたが
 突も身を起して、直ちに引返すべ
 く一步踏み出した。

●殿下御買上品
 関虎堂殿下御買京中兵運倉へ成ら

此入札保證金一各目入札高ノ百分
 五ノ上
 右入札ニ附シ供給額希望額ノ差ハ本
 府庶務係ニ就キ入札人心得書約書
 案ニ添付シ見本等熟覽ノ上本府月
 日午後二時限リ本府庶務係ニ入札ス
 日午四時開札ス
 此契約ハ朝鮮總督府申付金充允擔任
 大正四年十月十四日
 東京府

大正四年十月一日發行

正岡子規監修
新俳句
 模範的の新類題句集
 定價四十五錢
 郵税社負擔

本書は、故正岡子規氏が嚴正なる監督の下に成れる、明治類題句集にして、題目の豊富なる句數の饒多なる、他に其比を見ず。編纂の方法亦一新機軸を出し、四季を十二ヶ月に別十餘枚を挿みて、清新なる句に配したるなど、所なし。明治俳句の特色を知らんと欲する者の必讀必備の良書也。

發行所 京城太平通一丁目
 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

國內藤岡雪の題言
 新俳句は新俳句にあらず、古俳句なり。否、新古を集めて大成したる俳句なり。余が舊吟に、百年にして天明
 二百年にして明治の初日影
 庶幾くは以て此集に賛するを得ん

ち、更に之を天文、時令、動植物、雜事、前書、叢類等の順序に分類し、卷中數十個所に、爲山、壽伯の奇抜なる俳畫三

會席御料理
共進會開催中は特に御
晝食其他御好次第御手
輕に調理可仕候
水族館を東へ一ツ月角
醉月 杉浦 あさ
電話一三九番

日本郵船出帆

高砂丸	十月廿一日	正午出帆
三浦丸	十月十八日	正午出帆
江崎丸	十月三十日	正午出帆
青島丸	十月廿一日	正午出帆
原州丸	十月廿一日	正午出帆

朝鮮郵船

代理店 松原運送店

支店 釜山 大邱 蔚山 大田 光州 濟州 仁川 釜山 大邱 蔚山 大田 光州 濟州 仁川

日本郵船出帆

高砂丸	十月廿一日	正午出帆
三浦丸	十月十八日	正午出帆
江崎丸	十月三十日	正午出帆
青島丸	十月廿一日	正午出帆
原州丸	十月廿一日	正午出帆

朝鮮彙報は朝鮮總督府に於て編纂發行せらるゝ月刊雜誌にして精確豐富なる材料に依り朝鮮百般の施設成績及狀況を記述し以て朝鮮研究者の資料に供す 本號に於ては特に始政五年記念共進會の記事を豊富にし之を色刷とし且口繪の數を増し以て一層其の精彩を加へたり

主 要 日 次

●口繪——第一號館拓殖部、審勢館、第二號館、土木及交通部、參考館、新築の京城郵便局

●共進會記事

●共進會の開場

●共進會巡覽記

●共進會出品概觀

●各種大會日程

●朝鮮五葉松の直幹が末梢に至り二又乃至四又する理由

●米國華府に於ける國立印刷局の概況

●青島の殖林事業

●忠清南道篤行者事績概要

●醫學講習所教育事務狀況

●京畿道內國費造林事業概況

●大正四年夏蠶狀況

●公普通學校の卒業生指導

●普通通學校の卒業生指導の實例

●朝鮮不動產の權利の得喪に關する制度

●朝鮮語動詞に關する重要な疑問

●朝鮮商業會議所令及朝鮮重要物產同業組合の要旨

●國王職牧馬事業の概要

●國語及朝鮮語研究

●鐵道運輸

●投稿を歡迎す

●原稿締切期限每月十日

●研究資料

●官の調査と個人の研究とを問はず朝鮮研究に關する記事は努めて掲載す

●地方通信

●各地方の經濟事情、人情風俗、古蹟の紹介

●其の他一般狀況の通信を掲載す

●法令、經濟、統計等に關する質疑に應ず何人も本欄を利用し得べし

●投稿は必ず記名をす但し希望に依り筆名紙面を匿名とす可きものあり

●本誌は毎月一紙紙二百五十餘頁定價二十五錢郵稅二錢

●本誌は東京神山巖松堂書店 京城其他朝鮮各地書店にて販賣す

[illegible][illegible]